

auto fashion import

afimp.

祝創刊15周年へ、ラスト1号
特大号♥完全保存版

ガイシャイジリ大好き♥センスアップカーマガジン

特別なブックinブック

いい音聴きたい♥

輸入車オーディオショップガイド!

12

www.autofashion.com/imp
2009年12月号 700円 毎月10日発売
次号2010年1月号は12月10日(木)発売

スタイルアップカーコンテスト 命な皆様に愛と感謝を♥
ファイナルステージバトル36台登場!

ライト メイクアップ!

アナタのクルマが大変身!
夜光輸入車大特集

夜、妖艶なるスタイルアップのススメ!

最新スタイルアップカー♥

**ABT VW GOLF GTI
Alpil AUDI A4**

海外チューナーズドイツレポート
speedART



秋のイベントモリモリレホ♥

BMWファミーリエ

ピットハウスロコツーリング
ワーンズ、ボルボオシリーツーリング
VW&AUDIフェスト

輸入車チューニング RS! imp!

直線番長0→400m大会♥



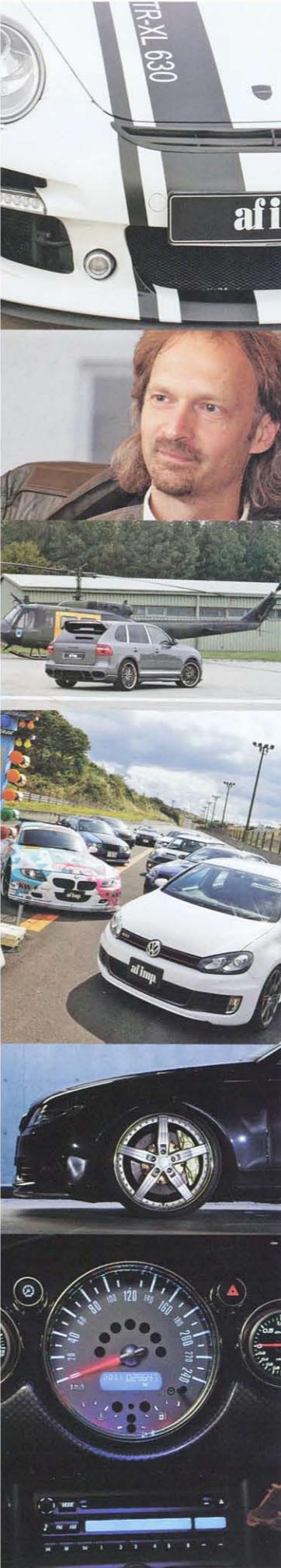
speedART

美しいと速さ
を手に入れる。

ポルシェというスポーツカーをベースに、よりスポーティでエレガントなチューンドモデルを作り上げる。スピードとグッドデザインを融合させるという社名通り、パワフルで魅力的なコンプリートモデルを生み出す気鋭のポルシェチューナー、スピードアート。日本のメディアとして初めて、その全貌を紹介する

REPORT ©Keisuke KUMASAKI (af imp.)
PHOTOGRAPH ©Michio IKURA
INTERPRETATION&COORDINATION ©Hiroshi TSUJI(Hiroshi TSUJI OFFICE)

speedART Automobiletechnik & Design GmbH
Leonberger Str.44
D-71277 Rutesheim
TEL.+49 7152 / 90 110-0
<http://www.speedart.de/>



af imp.
12 CONTENTS
No.179
www.autofashion.com/imp

次号2010年1月号は
12月10日(木)発売です。
afimp.XGOLF afimp.XMINI
ゴルフVとミニに続くシリーズムック
afimp.XBMW 11月20日全国書店で発売!!
毎月10日はインプの日です!

af imp.
12 CONTENTS
No.179
www.autofashion.com/imp

次号2010年1月号は
12月10日(木)発売です。
afimp.XGOLF afimp.XMINI
ゴルフVとミニに続くシリーズムック
afimp.XBMW 11月20日全国書店で発売!!
毎月10日はインプの日です!

NEW STYLE! NEW PARTS!

20 ABT GOLF VI GTI

新世代を感じさせる鋭角的なデザイン

26 Alpil AUDI A4

"A4" の立ち位置を決定づける、ジャストナウのあしらい

WORLD TUNER'S NEWS!

41 GERMAN TUNERS REPORT 2009-2010

speedART

さらなる速さと美しさを手に入れる

49 TUNING KEY WORD

チューニングトレンドを開け!
OKADA PROJECTS オカダプロジェクト
開発 下岡良彰

スーパーカーの火花は強ければ強いほど良いわけではない
重要なのはエンジンとのマッチングだ!!

51 TUNING TREND PARTS

輸入車チューニングの注目パーツ
1.BLITZ AG S-Gauge
バックライトにこだわったサブメーター
2.SACLAM SILENCER KIT
実戦に向けて排気効率アップ
3.CARBONIO CARBON AIR BOX
インテークのボリュームアップ

92 Shop Works 2009

フォッシュランクからイチ早コーディネイト提案!
シロッコ快進撃、はじまる。

94 RIEGER TUNING SCIROCCO BLACK 2.0TSI with XENON SNKチューニングのECUチューンでパワーアップ!

96 TOP OF THE STYLE-UP!!

キャンバー角を操作して、足もとをもう一歩、攻める。
NEX SUSPENSION SYSTEM GTP-TYPE / GTAP-TYPE



COVER PHOTO
ART DIRECTOR: 大橋久美 Kumi OHASHI
PHOTOGRAPHER: 南井浩幸 Hirotaka MINAI
COVER CAR: FAME! BMW335i



ゲンバラから独立して10年で一流チューナーへ

シユツツトガルト近郊の街、ル・デスハイド。ヨーロッパ・チューナー、スピードアートが拠点を構える小さな街だ。この通り、シユツツトガルトはタルセデス・ベンツと共に、ポルシェのお膝元でもある。今からちょうど10年前、スピードアートは同じくシユツツトガルト近郊のレオベルクという街で旗揚げをする。

ゲンバラを辞したビヨルン・シューリーニング氏が、ポルシェの動向を敏感にキャッチすることができること

の地に根を下ろしたのは、ある意味

必然だつたのももしかない。

「ゲンバラにはセールスとして入社しましたが、始終ファクトリーに入つてメカニックと一緒に自分のクルマをいじつていました。中古で手に入れた993のターボは最高でしたよ」

ゲンバラ在籍はわずかに1年。その後メカニックを1人連れ、スピードアートを立ち上げることになる。

「当初は、イタリアのホイールブランドの輸入を中心にしていました。

もちろんポルシェ用です。その後、ホイールだけでなくチヨーニングバーチやボディパーツのオーダーも舞い込んできましたので、996や

997などの開発したところによれば、この車両のバーツを開発したといふわけです」こうしてシューリーニング氏は、ポルシェチューナーとして自分のブランドを持つという夢を、30代の前半で叶えてしまった。

その後のスピードアートはどう

いふよくなつたので、996や997の開発が主催するチューナー

として認知されるに至っている。

「チューナーグランプリでは、カイエンの先代モデルで04年、05年と連続して2位に、そして現行モデルでは、07年、08年と連続して優勝しています。また997ターボ・カブリオレは昨年2位を獲得しました。ポルシェだけに専念し、特化することで、ポルシェ専門チューナーとしての真価を發揮できただと思っています」。



↑シートのセンター部分は、往年のポルシェで使われていた柄を取り入れている



↑スカッフプレートやフロアマットまで、トータルでインテリアを作り込むようにプログラムが充実している

↑カーボンとレザーでトリムされたインテリア。ステアリングやショートシフトもスピードアートのアイテムだ

創業以来ポルシェひと筋
新進気鋭のトータルチューナー

↑開口部が広げられたBTR-XLのフロント。カーボンエアダクトとリップスポイラーが追加され、より攻撃的なルックスを見せる

↑ブラック&ホワイトのモノトーン仕立てされたRSC II エレガンスは8.5J×20インチ。タイヤは235/30-305/25

↑ボトムから切れ上がっていくサイドスカート。動的なビジュアルイメージと共に、空力面でもアドバンテージとなる

↑630hp/840Nmを発揮するノワーキット。200セルのスポーツキヤタライザーやVGTターボのモディファイ、インタークーラーやフィルター、ECUの変更、さらに強化クラッチも施されているが、気難しさはない。ストライプの効果もあって、スポーティなイメージに意識させるフィニッシュだ

↑エンジンの排熱を考慮したエアダクト。ターボモデルらしいディテールといえる。エキゾーストはマットブラックに仕上げられている



美しく、そして機能するエアロと よりパワフルなエンジンチューニング

ラバラの状態だったが、すでにファクトリーで解析が進み、ショーターには間に合う予定だという。

コンピューターを皮切りに、エキゾーストやスポーツキヤタライザー、インタークーラーやビッグタービンに至るまで、エンジン周りのチューニングメニューが充実している。タービンも純正採用されているVGTを使うなど、耐久性やマッチングも十分に考慮されているのだ。

一方で、ボディのオブティカルチューニングや内装の張り替えなど、総合的なモディファイが行えるメニューもラインアップされている。

「ボディワークについては、社外のデザイナーと共にで行っています。ボルシェの持つボディラインを崩すことなく、さらに必要な機能やディテールを盛り込んでデザインしまして行きます。ちなみに新しくリリースするホイール、LSCフォージッドは私がすべてデザインしました」特に911系のボディは、リアエンジンという特性上、空力がとても重要な要素となる。前後バランスが少しでも狂えば、クルマの挙動はたちまち不安定になりかねない。見た目だけのボディペイントは命取りなのだ。機能するエアロ。本来ならば当たり前のことなのだが、スピードアートのエアロは、美しく、そして確実に機能するのだ。

ラバラの状態だったが、すでにファクトリーで解析が進み、ショーターには間に合う予定だという。

コンピューターを皮切りに、エキゾーストやスポーツキヤタライザー、インタークーラーやビッグタービンに至るまで、エンジン周りのチューニングメニューが充実している。タービンも純正採用されているVGTを使うなど、耐久性やマッチングも十分に考慮されているのだ。

一方で、ボディのオブティカルチューニングや内装の張り替えなど、総合的なモディファイが行えるメニューもラインアップされている。

「ボディワークについては、社外のデザイナーと共にで行っています。ボルシェの持つボディラインを崩すことなく、さらに必要な機能やディテールを盛り込んでデザインしまして行きます。ちなみに新しくリリースするホイール、LSCフォージッドは私がすべてデザインしました」特に911系のボディは、リアエンジンという特性上、空力がとても重要な要素となる。前後バランスが少しでも狂えば、クルマの挙動はたちまち不安定になりかねない。見た目だけのボディペイントは命取りなのだ。機能するエアロ。本来ならば

当たり前のことなのだが、スピードアートのエアロは、美しく、そして

確実に機能するのだ。

機能を求めるなら、美しいデザインになる

「ハードウェアの機械的なアプローチは、どの世代のポルシェでもまったく問題なくクリアできます。しかし最近のクルマは、電気的なチューニングを避けて通ることができました。現在は最新のバナーラと997のフェイスリフトを手掛けている年。エッセンモーターショーでデビューする予定となっているスピードアートのバナーラ。取材時にはバ



↑BTRとは異なる形状のルーフスポイラー。

大振りのマウンドとシ

ンプルなウイングがカ

イエンを引き立てる



↑中央で折り返されたサイドスカート。大型なカイエンのサイドビューポイントとなる



↑開口部から覗く左右出しのエキゾースト。テールエンドはマットブラック。渋みの効いたディテールだ

→タテに仕込まれたデ

ィタイムライトとヘッド

ライトカバーもスピード

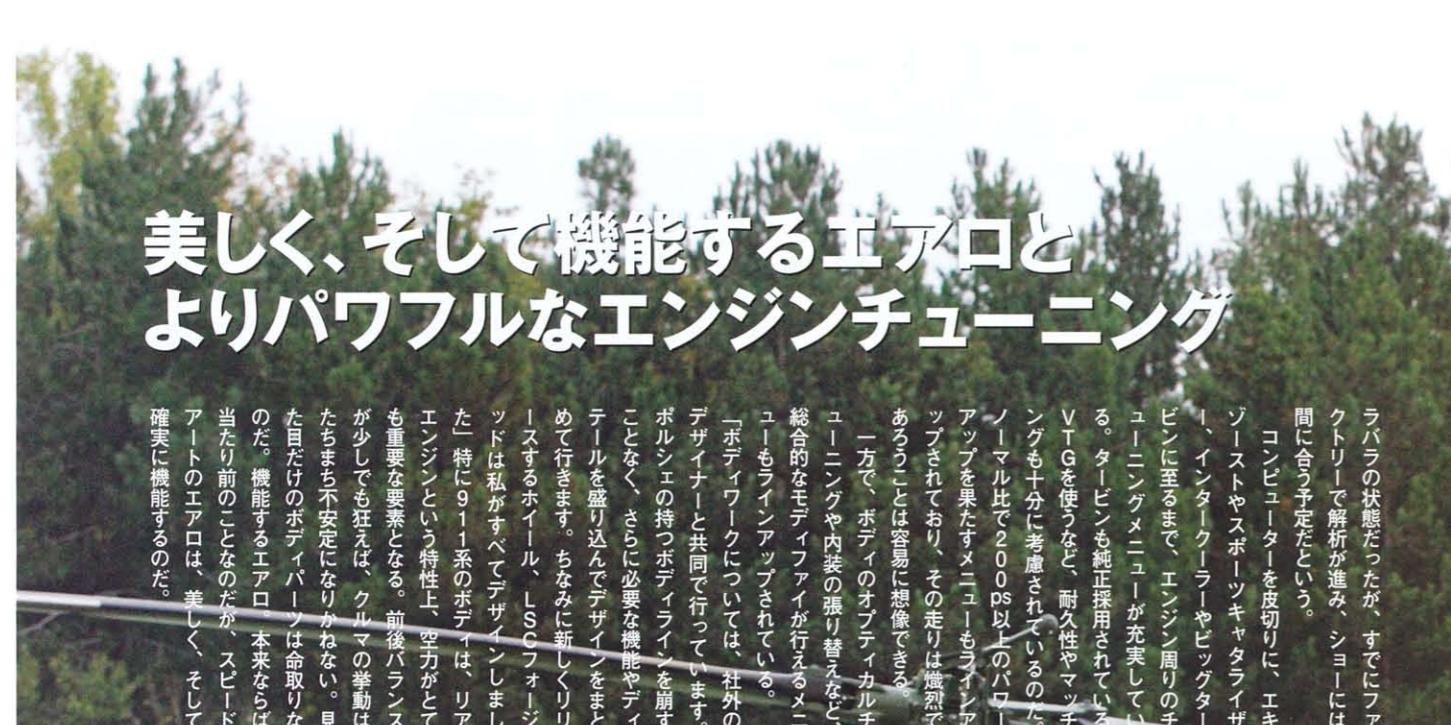
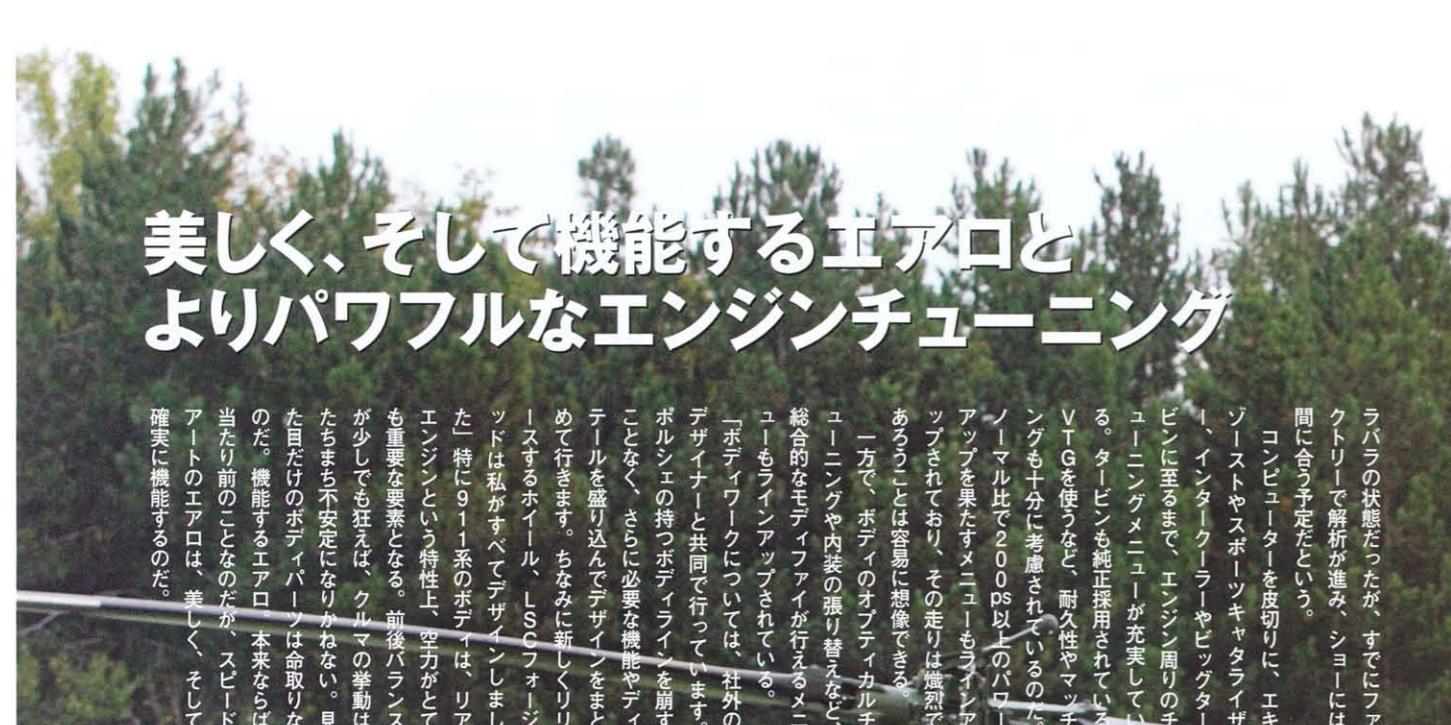
アートのアイテム



↑フロアペダルやマットまで、トータルでコーディネイトでき、スパイクティフジニアリーな雰囲気が漂うインテリア



↑ダッシュボードメーター周り、ドアパネルまで丁寧にアルカンタラで張りめぐらされている。ステアリングはハンドガバットに替わしたもの



TITAN -BTR 635



↑シンプルな3つの開口部をレイアウトしたフロントバンパー。さらに薄いリップを装着することも可能
↑有機的なラインを描く5スポーク3ピースホイール、RSC II エレガанс。往年のポルシェをイメージさせるデザイン



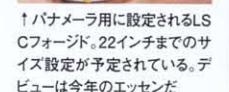
BTR 500



↑巨大なウイングとリアスポイラ、そしてスリットの入ったディフューザーという迫力のあるアビュ



↑スパイラーにはフレッシュエアを導入する巨大なインテークが備わっている。機能を引き上げるためのエアロデザインだ



↑パナメーラ用に設定されるLS Cフォージ、22インチまでのサイズ設定が予定されている。デビューは今年のエッセンだ

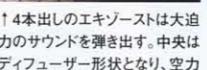
PS9-650

「メーカーは、チューニングやモーディファイする能力をもちろん持っています。でもしない。だから代わって我々がやるので」経営学を学び、セールスとしてゲンバラに関わったショトリーニング氏ならではだ。さて、スピードアートのウェブサイトを開くと、チューニングと共にクラシックというカテゴリーがあることに気付く。先ほど「すべてのポルシェがその対象」と記したが、クラシカルなポルシェ、例えばナローや空冷も手掛けているのだろうか? 「チューニング」というわけではなく、クルマをレンタルするといった、クルマに関わる総合施設。スピードアートはモダンポルシェのチューニングやモーディファイだけでなく、クラシカルポルシェを現在の路上に戻すということも行っている。

ポルシェ一筋にチューニングを続けてきたスピードアート。ショトリーニング氏曰く「あまり深く考えないでつけた」というその社名に現れている通り、さらなる速さと、さらなる美しさを、すべてのポルシェに提供するということを創業以来10年間、不懈に続けてきた。そしてそのスタイルは、これからもずっと続いているのだろう。他のライバルチーナーとは違った、新たななるチユ



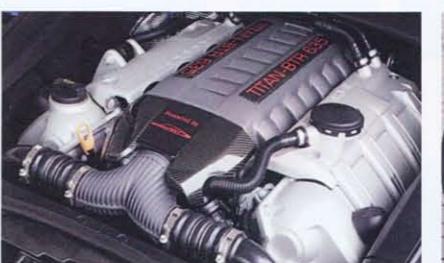
↑強く走りたいというヒントもいるわけ



↑独特の形状を持つリアスポイラー。ハイマウントの両側をスリットのように造形し、ルーフからの風を整流している



↑4本出しのエキゾーストは大迫力のサウンドを弾き出す。中央はディフューザー形状となり、空力面でも強化されている



↑エアフィルター、タービン、スポーツキャタライザ、エキゾースト、コンピューターを変更して635hpを発揮するエンジン。2.5トンの巨体を乗轍々とドライブする



すべてのポルシェにさらなる速さと美しさを



↑代表のビヨン・シュトリーニング氏。ゲンバラ時代には993ターボを中古で手に入れてカスタムしたとか。ちなみにティックアート社との関係はない

←タイタン・エレガансの22インチを装着。力強いスポーツオーバーフェンダーとのマッチングもバツチ。車高はエアサスコントローラーで約40mmほど落とされている

→代表のビヨン・シュトリーニング氏。ゲンバラ時代には993ターボを中古で手に入れてカスタムしたとか。ちなみにティックアート社との関係はない

ポルシェに足らないところは、どこだ?

「いつの時代も最新のポルシェが最もポルシェである」とはよく言われるフレーズだが、その言葉通りに、チューナーが介在する新型車は常に高機能化、高性能化を遂げている。最新のポルシェに乗ると、そこにチューナーが介在する余地は、果たしてあるのか? そんなネガティブな疑問すら浮かんでくる。シュー

トリーニング氏にとって、ポルシェのシリーズモデルに足らないものとは、どんなところなのだろうか?

「まず言えるのは、ポルシェ自体が大企業であるということです。顧客

ひとりにアジャストしたクルマを作るわけにはいきませんからね。

技術的にはまったく問題なくても、それを許す販売の環境はないでしょ

う。そしてもうひとつは、グレード

間に必ず格差があるということ」。

ケイマンは911よりも下。これは当

たり前なのですが、ケイマンでもつ

ともっとパワーが欲しい、もっと速

く走りたいというヒントもいるわけ

です。新しく発表されたパナメーラに

してもGTカーとしての性格が強い

ので、ポルシェが作り上げてきたイ

メージとは違うと思っているヒトも

少なくないでしょう。我々が手を加

えるのは、まさにその部分なのです

911にせよ、ケイマン／ボクス

ターにせよ、そしてカイエンにせよ、

スピードアートはすべてのモデル

に、エアロバーツやエンジン、排気

系、サスペンション、そしてインテ

リアに至るまで、チューニングとモ

ディファインのメニューがラインアッ

プされている。すべてのポルシェが、

そしてすべてのパートが、スピード

アートが手掛ける対象となるのだ。